

社団法人 日本種苗協会 長崎県支部の食育推進活動

社団法人 日本種苗協会について

当協会は、全国の種苗業者の集りで、協会の役割として野菜・花卉・牧草等の優良種子の供給、品種の開発等を促進し、日本の農業ひいては、国民全体の生活水準の向上を図ることとしています。

日本種苗協会としてなぜ食育に取り組むのか

現状取り組まれている「食育」の多くは、主に『食の消費面』に焦点を当てた活動となっています。真の意味での「食育」を推進するためには、食のバックグラウンドとなる『食の生産面』に焦点を当てた取り組みが必要と食の原点である種苗を取り扱う業界として、本質的な「食育」の浸透させるための「食育」に取り組んでいます。活動の概要としては「食の生産」に焦点を当てた「食育」を推進し、子供たち自身が野菜を栽培、収穫、調理して食することで「食」を自ら育み食することの楽しみと喜びを伝える、また、教材として地方伝統野菜などを取り上げることで、地域の食文化伝承にも貢献しています。

活動内容 ・活動テーマ「タネ屋さんの食育授業」育てる楽しさ、食べるよろこびを体験しよう！

各県の支部が地元の小学校を対象とし、長崎県支部では協会が活動開始した平成21年から取り組んでいます。県内の種苗店が協力し、年度ごとに複数の小学校を選定、主に2年生の「生活の時間」をお借りして年間5回の食育授業を行っています。授業については児童の興味を引くタネのクイズ等を行い、栽培では春はミニトマト・ナス等の果菜類、秋はカブ・白菜等の葉菜類をミニプランターや学級園で栽培しています。栽培期間中には10回前後畑の管理に出向き、児童たちが収穫した野菜は持ち帰って家庭で食したり、父兄が参加した料理実習と会食に使っています。子供たちからの「ナスやトマトが食べれるようになりました。」とのお礼のお便りには、この取り組みが持つ本質が見えた感じがします。

平成21年～25年の活動実績

実施年度	実施小学校	学年	児童数
平成21年度	長崎市立橘小学校	2年生	160名
	諫早市立小栗小学校	2年生・5年生	86名・78名
平成22年度	諫早市立諫早小学校	2年生	86名
	大村市立大村小学校	2年生	101名
	佐世保市立江上小学校	1年生・2年生	45名・44名
	島原市立高野小学校	2年生	14名
平成23年度	諫早市立諫早小学校	2年生	86名
	諫早市立長里小学校	2年生・4年生	17名・14名
	雲仙市立愛野小学校	2年生	67名
平成24年度	諫早市立諫早小学校	2年生	90名
	諫早市立長田小学校	2年生	34名
平成25年度	諫早市立諫早小学校	2年生	99名
	諫早市立北諫早小学校	2年生	113名

栽培のスナップ写真



5月、野菜の苗を植え付けます。



6月、トマトが大きくなった。



11月、赤カブの収穫。